

情報公開内容

課題名：ガドキセト酸ナトリウム肝造影ダイナミック MRI～動脈相画像における truncation artifact 出現と検査条件との相関性に関する後ろ向き研究～

本研究の目的

ガドキセト酸ナトリウム（以下 EOB）は肝臓用の MRI 造影剤であり、ガドキセト酸ナトリウムを使用した肝臓 MRI 検査（以下 EOB 造影 MRI）は肝臓の疾患などを調べるために既に当院で実施されている検査であり、有用性の高い検査です。一方 EOB 造影 MRI 画像では撮像条件によってアーチファクト（偽像）が出現することがあると報告されていますが、一部の検査条件でのみの検討しかなされておらず、どの検査条件でこのアーチファクトが出現するか正確なことはわかっていません。

現在近畿大学を中心とする全国約 40 病院において「ガドキセト酸ナトリウム肝造影ダイナミック MRI～動脈相画像における truncation artifact 出現と検査条件との相関性に関する後ろ向き研究～」という調査研究が実施されています。この研究の目的は検査条件とアーチファクト出現の関連性を調べることです。当院はこの近畿大学の調査研究に協力しています。

本研究組織

主施設・研究統括医師：

近畿大学医学部 放射線医学教室 放射線診断学部門 教授 村上 卓道

協力機関：岐阜大学 ほか 約 40 病院

本院研究責任者

広島大学病院 放射線診断科 教授 栗井 和夫

本研究の対象

2012 年 5 月 10 日～2013 年 5 月 9 日の間に、広島大学病院において肝臓の疾患などを調べるために EOB 造影 MRI 検査を受けられた患者さん。

本研究の意義

本研究により、検査条件とアーチファクト出現との関連性を明らかにすることができれば、そ

れに応じた EOB 造影ダイナミック MRI 検査条件の設定が可能となり、アーチファクトのさらなる軽減、MR 画像の画質改善、原発性肝細胞癌をはじめとする肝腫瘍性病変の描出能や診断精度向上につなげることができると考えています。

本研究での評価項目

本研究では、EOB 造影 MRI の撮影方法、画像およびカルテの情報を扱い、造影効果と肝機能の関係を評価します。カルテを調べて調査することが主な調査方法です。調査項目は、患者さんの性別、年齢、身長、体重、採血結果、既往歴、臨床診断、画像診断、手術所見、病理診断です。

本研究への参加と個人情報保護

この研究へ情報を提供したくない場合は下記までご連絡下さい。

本研究への情報提供を拒否されてもなんら不利益は生じません。

この研究に参加することで特別な謝礼金などの資金援助はありません。

学会論文発表は完全に匿名化してなされます（名前、ID、イニシャル、生年月日等の個人を特定できる情報は記載されません）。

症例の個人情報は匿名化されますので、個人情報が漏洩することはありません。

問い合わせ、苦情等の窓口の連絡先

担当者所属：広島大学病院 放射線診断科

職名：助教

氏名：中村優子

連絡先電話番号：082-257-5257